

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書神学特殊研究 a	大住 雄一
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 旧約神学、釈義、歴史に関する諸問題から、一つの主題を掲げて深く掘り下げる特殊研究クラスである。博士課程前期課程 旧約聖書神学特研 I a との合同授業であるが、後期課程院生には、それにふさわしい討論への貢献が求められる。</p>	
<p><授業の概要> 今学期は、民数記（特に後半部分）のテキスト釈義を行い、神学的なイスラエル、また歴史的なイスラエルの姿を描き出す。</p>	
<履修条件>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 民数記全体の構造、構造を指し示すキーワード・キーテキスト 2. イスラエルを導く権威の所在、アロンの罪と死 テキスト：民数記 20 章 3. モーセの罪と死 テキスト：民数記 20:1-13, 27:12-23 4. 出エジプト第二世代の部族の構成と大きさ テキスト：民数記 26 章 5. 女性の土地相続 テキスト：民数記 27 章、36 章 6. 日々の献げ物、特定の日々の献げ物 テキスト：民数記 28 章 7. 第七の月とは何か テキスト：民数記 29 章 8. 誓願について、女性の例外規定 テキスト：民数記 30 章、6 章 9. イスラエル女性の名誉 テキスト：民数記 5:11-31, 申命記 22:13-29 10. ミディアンの女 テキスト：民数記 31:1-24 11. 戦利品の分配規定 テキスト：民数記 31:25-54 12. ヨルダンの東に残った部族 テキスト：民数記 32 章 13. エジプトから約束の地まで テキスト：民数記 33 章 14. 土地の分配とレビ人の町・逃れの町 テキスト：民数記 34-5 章 15. まとめ 	
<準備学習等の指示>	
<テキスト> Biblia Hebraica Stuttgartensia	
<参考書> 参考文献はそのつど指示するが、いくつかの註解書を各自選んで常に参照すること。	
<学生に対する評価（方法・基準）> 割り当てられた課題発表の内容と、毎回の討論への参加度によって評価する。	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書神学特殊研究 b	大住 雄一
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 旧約神学、釈義、歴史に関する諸問題から、一つの主題を掲げて深く掘り下げる特殊研究クラスである。博士課程前期課程 旧約聖書神学特研 I b との合同授業であるが、後期課程院生には、それにふさわしい討論への貢献が求められる。</p>	
<p><授業の概要> 今回は、申命記のテキスト釈義を行い、イスラエル存立の基盤になった歴史と、そのような歴史によって今在るを得たイスラエルをそれに相応しく保つための法を明らかにする。</p>	
<履修条件>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 申命記全体の構造、構造を指し示すキーワード・キーテキスト 2. 歴史によって基礎付けられる契約と法 テキスト：申命記 1:1-8 3. イスラエルの法制度の根拠たる歴史 テキスト：申命記 1:9-18 4. 約束の成就の前にしり込みするイスラエル テキスト：申命記 1:19-46 5. しり込みしてはならない テキスト：申命記 7 章 6. 土地占有の根拠 テキスト：申命記 7 章 7. 申命記 7 章と十戒 テキスト：申命記 7:7-11, 5:6-21 8. 約束の成就と法 テキスト：申命記 6:10-15 9. 歴史の経験 テキスト：申命記 6:16-19 10. 今日をかくあらしめている歴史 テキスト：申命記 6:20-25 11. 主とイスラエルの相互規定 テキスト：申命記 5:6-10 12. イスラエルの「しるし」 テキスト：申命記 6:6-9 13. 「エジプトの重い病気」 テキスト：申命記 7:12-15 14. 荒野の旅の教訓 テキスト：申命記 8 章 15. まとめ 	
<準備学習等の指示>	
<p><テキスト> Biblia Hebraica Stuttgartensia. 申命記については、Biblia Hebraica Quinta も使用可。</p>	
<p><参考書> 参考文献はそのつど指示するが、いくつかの註解書を各自選んで常に参照すること。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 割り当てられた課題発表の内容と、毎回の討論への参加度によって評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書文学特殊研究 a	中田 一郎
前期・2単位	<登録条件> 学期単位で履修できるが、通年履修が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 古代オリエント史の諸問題がテーマ。特に古代オリエントの宗教と社会に関する具体的な問題を取り上げて学ぶことにより聖書の世界をより深く理解することが到達目標である。</p>	
<p><授業の概要> 前期では、古代メソポタミアの宗教に関わる諸問題を取り上げる。</p>	
<p><履修条件> 特になし。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：古代メソポタミアの神々 古代メソポタミアでは1800を越える神々の名が知られているが、一般の人々にとって重要な神々ほどれくらいあったのだろうか。また、人々はそれらの神々とどのような関係を取り結んでいたのだろうか。</p> <p>第2回：人間創造とその意味 メソポタミアでは人間が何のために創られたと考えられていたのだろうか。</p> <p>第3回：神と人との間のコミュニケーション メソポタミア人は神々が何を考えているのかを知ろうとしたが、それにはどのような手段があったのだろうか。</p> <p>第4回：メソポタミアの占いのいろいろ 神々の考えを知る手段の1つに占いがあったが、これにはさまざまな占いがあった。</p> <p>第5回：メソポタミアの内蔵占い メソポタミア人がもっとも「科学的」と考えた神意発見の手段としての内蔵占いを概観する。</p> <p>第6回：メソポタミアの夢と夢占い 文学作品や手紙に報告されている夢の例、また夢占い文書等を取り上げる。</p> <p>第7回：天体占い 前1千年紀のアッシリアにおいて特に重視された天体占いについて概観する。</p> <p>第8回：代理王の話 天体占いの結果、王の身に不吉なことが起こることが予想された場合、それを回避するために代理王が立てられた。ここでは、代理王の制度を具体例に基づいて解説する。</p> <p>第9回：メソポタミアの預言 古代メソポタミアで知られている預言の事例を概観する。</p> <p>第10回：マリ預言文書とは マリ文書預言文書の定義とマリ文書預言文書の概観。</p> <p>第11回：マリ預言文書の分析 マリ預言文書に見られる預言のまとめ。</p> <p>第12回：マリの預言と旧約の預言 幾つかの例を取り上げ、比較を試みる。</p> <p>第13回：人間疎外の問題 人間疎外を問題とした文学作品を通してメソポタミアにおける人間疎外の問題を考える。</p> <p>第14回：メソポタミア人の死生観 「ギルガメシュ叙事詩」や「イシュタルの黄泉下り」などの文学作品に見られる死生観を概観する。</p> <p>第15回「ペシミスト」の宗教観 「ペシミストの対話」と題する文学作品を通して、「ペシミスト」の宗教観を分析する。</p>	
<p><準備学習等の指示> 特になし。</p>	
<p><テキスト> 適当な教科書がないため、毎回教室で授業のレジюмеおよびプリント資料を配布する。</p>	
<p><参考書></p> <p>ジャン・ボテロ著・松島英子訳『メソポタミア—文字・理性・神々—』（法政大学出版社、1998年） ジャン・ボテロ著・松島英子訳『最古の宗教』（法政大学出版社、2001年） なお、第1回目の授業の際に教室で詳しい参考文献表を配布する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 筆記試験を行う。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書文学特殊研究 b	中田 一郎
後期・2単位	<登録条件> 学期単位で履修できるが、通年履修が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 古代オリエント史の諸問題がテーマ。特に古代オリエントの宗教と社会に関する具体的な問題を取り上げて学ぶことにより聖書の世界をより深く理解することが到達目標である。</p>	
<p><授業の概要> 後期では、古代メソポタミアの社会に関わる諸問題を取り上げる。その際、ハンムラビ法典を重要な同時代史料として利用する。</p>	
<p><履修条件> 特になし。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：正義の維持者としての王。「正義」という言葉の初出と正義の維持が王の責務であるとの考え方について述べる。『メソポタミア文明入門』106-111頁。</p> <p>第2回：「法典」の性格。「法典」の意味に関する研究史を概観する。『メソポタミア文明入門』120-124頁。『ハンムラビ「法典」』159-166頁。</p> <p>第3回：王碑文と「法典」の構造。王碑文と「法典」を比較することにより、「法典」の構成を考える。『ハンムラビ「法典」』167-176頁。</p> <p>第4回：法の形式。決疑法、断言法、関係名詞を使った法形式などを概観する。『メソポタミア文明入門』116-120頁。『ハンムラビ「法典」』194-200頁。</p> <p>第5回：社会階層。ハンムラビ「法典」に見られる社会階層について概観する。『メソポタミア文明入門』126-129頁。『ハンムラビ「法典」』83-93頁。</p> <p>第6回：裁判。裁判をめぐる諸問題を概観する。『メソポタミア文明入門』129-134頁。『ハンムラビ「法典」』第1-5条とその注解。</p> <p>第7回：兵士。兵士の兵役義務と生活保障について概観する。『メソポタミア文明入門』134-140頁。『ハンムラビ「法典」』第26-41条とその注解。</p> <p>第8回：農民と牧夫。農民の生活と牧夫の生活を概観する。149-146頁。『ハンムラビ「法典」』第42-58条とその注解。</p> <p>第9回：資本家と行商人。資本家と行商人の商業活動を概観する。『メソポタミア文明入門』147-153頁。『ハンムラビ「法典」』第cc-126条とその注解。</p> <p>第10回：専門職人とその責任。医者、獣医、大工、船大工などの専門職人とその責任について概観する。『メソポタミア文明入門』153-158頁。『ハンムラビ「法典」』第215-240条とその注解。</p> <p>第11回：結婚（その1）。結婚に至るまでの緒段階、結婚に伴う金銭の授受について概観する。『メソポタミア文明入門』160-165頁。『ハンムラビ「法典」』113-121頁。</p> <p>第12回：結婚（その2）。一夫一婦制それとも一夫多妻制？『メソポタミア文明入門』166-169頁。</p> <p>第13回：離婚。離婚に関する規定を概観する。『メソポタミア文明入門』170-174頁。『ハンムラビ「法典」』137-149条とその注解（121-125頁）。</p> <p>第14回：養子縁組。養子縁組みに関する規定と実際について概観する。『メソポタミア文明入門』178-182頁。『ハンムラビ「法典」』第185-194条とその注解。</p> <p>第15回：遺産相続。ハンムラビ時代の遺産相続のあり方について概観する。『メソポタミア文明入門』176-178頁。『ハンムラビ「法典」』第162-167条とその注解。</p>	
<p><準備学習等の指示> 特になし。</p>	
<p><テキスト></p> <p>中田一郎『ハンムラビ「法典」』（第2版）（リトン、2002年） 中田一郎『メソポタミア文明入門』（岩波ジュニア新書、2007年）</p>	
<p><参考書> 第1回目の授業の際に教室で詳しい参考文献表を配布する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 筆記試験を行う。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書原典特殊研究 a	小友 聡
前期・2単位	<登録条件> 通年履修が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 旧約聖書のヘブライ語原典を丁寧に読み、注解書や研究論文を参照しつつ、積義する。</p>	
<p><授業の概要> この学期は、「コヘレトの言葉」を読み、積義する。博士課程前期課程の旧約原典積義 I a と並行。</p>	
<p><履修条件> ヘブライ語の基本文法を理解できること。</p>	
<p><授業計画> 第1回：コヘレトの言葉について 第2回：1章1－6節の直訳と本文批評、積義。 第3回：1章7－11節の直訳と本文批評、積義。 第4回：1章12－15節の直訳と本文批評、積義。 第5回：1章16－18節の直訳と本文批評、積義。 第6回：2章1－4節の直訳と本文批評、積義。 第7回：2章5－10節の直訳と本文批評、積義。 第8回：2章11－15節の直訳と本文批評、積義。 第9回：2章16－21節の直訳と本文批評、積義。 第10回：2章22－26節の直訳と本文批評、積義。 第11回：3章1－8節の直訳と本文批評、積義。 第12回：3章9－15節の直訳と本文批評、積義。 第13回：3章16－22節の直訳と本文批評、積義。 第14回：コヘレトの言葉1－3章の意義について 第15回：総括</p>	
<p><準備学習等の指示> 毎回、テキストをよく読み、準備すること。</p>	
<p><テキスト> BHSを用いる。また、辞書はBDBを用いるので、毎回持参すること。</p>	
<p><参考書> 上記で用いる注解書等のほか、ウォンネベルガー『ヘブライ語聖書への手引き』を用いる。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 演習に積極的に参加することを求める。毎回の発表と授業態度によって評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書原典特殊研究 b	小友 聡
後期・2単位	<登録条件> 通年履修が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 旧約聖書のヘブライ語原典を丁寧に読み、注解書や研究論文を参照しつつ、釈義する。</p>	
<p><授業の概要> この学期は、引き続き「コヘレトの言葉」を読み、釈義する。博士課程前期課程の旧約原典釈義 I b と並行。</p>	
<p><履修条件> ヘブライ語の基本文法を理解できること。</p>	
<p><授業計画> 第1回：コヘレトの言葉 4章 1-6節の直訳と本文批評、釈義。 第2回：4章 7-11節の直訳と本文批評、釈義。 第3回：4章 12-17節の直訳と本文批評、釈義。 第4回：5章 1-6節の直訳と本文批評、釈義。 第5回：5章 7-12節の直訳と本文批評、釈義。 第6回：5章 13-19節の直訳と本文批評、釈義。 第7回：6章 1-6節の直訳と本文批評、釈義。 第8回：6章 7-11節の直訳と本文批評、釈義。 第9回：7章 1-10節の直訳と本文批評、釈義。 第10回：7章 11-18節の直訳と本文批評、釈義。 第11回：7章 19-25節の直訳と本文批評、釈義。 第12回：7章 26-29節の直訳と本文批評、釈義。 第13回：8章 1-7節の直訳と本文批評、釈義。 第14回：1-8章の意義について 第15回：総括</p>	
<p><準備学習等の指示> 毎回、テキストをよく読み、準備すること。</p>	
<p><テキスト> BHSを用いる。また、辞書はBDBを用いるので、毎回持参すること。</p>	
<p><参考書> 上記で用いる注解書等のほか、ウォンネベルガー『ヘブライ語聖書への手引き』を用いる。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 演習に積極的に参加することを求める。毎回の発表と授業態度によって評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
聖書語学特殊研究 a	佐藤 泉
前期・2単位	<登録条件> 通年での履修が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>旧約聖書原典は主にヘブライ語で、一部アラム語で書かれている。この授業では、聖書のアラム語のテキストを読むことと古代訳の一つであるタルグム（アラム語訳）を読むことを目標としている。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>聖書のアラム語のテキストを実際に読みながら（創世記31：47・エレミヤ10：11・エズラ4：8-24・5：1-17など）、アラム語文法を学ぶ。</p>	
<p><履修条件></p> <p>ヒブル語履修済みであることが望ましい。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：序 アラム語について、言語グループ、時代区分などを話す。</p> <p>第2回：創世記31：47を読みつつ、アラム語の名詞・形容詞を学ぶ。</p> <p>第3回：エレミヤ10：11を読みつつ、動詞の Peal 形の完了・未完了を学ぶ。</p> <p>第4回：エズラ4：8-24の講読(1) 不規則変化の名詞について学ぶ。</p> <p>第5回：エズラ4：8-24の講読(2) 動詞の Hapel 形の完了を学ぶ。</p> <p>第6回：エズラ4：8-24の講読(3) 動詞の Peal 形の分詞、Hitpeel 形の完了・未完了を学ぶ。</p> <p>第7回：エズラ4：8-24の講読(4) 動詞の Pael 形の完了・未完了、Hapel 形の未完了を学ぶ。</p> <p>第8回：エズラ4：8-24の講読(5) 動詞の Hapel 形の分詞を学ぶ。</p> <p>第9回：エズラ4：8-24の講読(6) 動詞の Pael 形・Hitpeel 形・Hitpaal 形の分詞を学ぶ。</p> <p>第10回：エズラ4：8-24の講読(7) 二根字動詞の Peal 形と動詞の不定詞・命令を学ぶ。</p> <p>第11回：エズラ5：1-17の講読(1) 前置詞と代名詞語尾を学ぶ。</p> <p>第12回：エズラ5：1-17の講読(2) 二根字動詞の Hapel 形を学ぶ</p> <p>第13回：エズラ5：1-17の講読(3) 二根字動詞の Hitpeel 形を学ぶ。</p> <p>第14回：エズラ5：1-17の講読(4) Pè Yôd 動詞の変化を学ぶ。</p> <p>第15回：エズラ5：1-17の講読(5) Pè Nun 動詞の変化を学ぶ。</p>	
<p><準備学習等の指示></p> <p>講読箇所として指示されているアラム語テキストについて、できる範囲で準備すること。</p>	
<p><テキスト></p> <p>Franz Rosenthal, A Grammar of Biblical Aramaic, Harrassowitz Verlag・Wiesbaden, 1995, Sixth, revised edition</p>	
<p><参考書></p> <p>左近義慈、『ヒブル語入門』、教文館、1966</p> <p>William L. Holladay, A Concise Hebrew and Aramaic Lexicon of the Old Testament, Grand Rapids, 1971</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>予習・復習、積極的な授業参加の状況によって成績をつける。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
聖書語学特殊研究 b	佐藤 泉
後期・2単位	<登録条件> 通年での履修が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>旧約聖書原典は主にヘブライ語で、一部アラム語で書かれている。この授業では、聖書のアラム語のテキストを読むことと古代訳の一つであるタルグム（アラム語訳）を読むことを目標としている。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>聖書のアラム語のテキストを実際に読みながら（ダニエル5章）、アラム語文法の学びを継続する。さらに、エレミヤ書のタルグムの講読もする。（箇所は未定。授業中に指示する。）</p>	
<p><履修条件></p> <p>ヒブル語履修済みであることが望ましい。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：ダニエル書の緒論的知識を確認し、前期の文法の復習をしつつ、ダニエル5章の講読に備える。</p> <p>第2回：ダニエル5章の講読(1) Pè'ālep 動詞の Peal 形を学ぶ。</p> <p>第3回：ダニエル5章の講読(2) Pè'ālep 動詞の Hapel 形を学ぶ。</p> <p>第4回：ダニエル5章の講読(3) 動詞の変化で字位転換が起こる場合について学ぶ。</p> <p>第5回：ダニエル5章の講読(4) Lāmed'ālep・Lāmed Hê 動詞の変化を学ぶ。</p> <p>第6回：ダニエル5章の講読(5) 二重'ayin 動詞の Peal 形を学ぶ。</p> <p>第7回：ダニエル5章の講読(6) 二重'ayin 動詞の Hopal 形を学ぶ。</p> <p>第8回：ダニエル5章の講読(7) 代名詞語尾付きの動詞の変化を学ぶ。</p> <p>第9回：ダニエル5章の講読(8) 喉音を含む動詞について学ぶ。</p> <p>第10回：ダニエル5章の講読(9) 特殊な変化をする動詞について学ぶ。</p> <p>第11回：エレミヤ書の緒論的知識とバビロニア方式の母音記号を確認し、タルグムの講読に備える。</p> <p>第12回：タルグムの講読(1) バビロニア方式の母音記号で読むことに慣れる。</p> <p>第13回：タルグムの講読(2) タルグムのアラム語の動詞の変化を学ぶ。</p> <p>第14回：タルグムの講読(3) アラム語文法を全体的に思い出しつつ読む。</p> <p>第15回：タルグムの講読(4) 原典や七十人訳と比較しつつ読むことを味わう。</p>	
<p><準備学習等の指示></p> <p>講読箇所として指示されているアラム語テキストについて、できる範囲で準備すること。</p>	
<p><テキスト></p> <p>Franz Rosenthal, A Grammar of Biblical Aramaic, Harrassowitz Verlag・Wiesbaden, 1995, Sixth, revised edition</p>	
<p><参考書></p> <p>左近義慈、『ヒブル語入門』、教文館、1966</p> <p>William L. Holladay, A Concise Hebrew and Aramaic Lexicon of the Old Testament, Grand Rapids, 1971</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>予習・復習、積極的な授業参加の状況によって成績をつける。</p>	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
新約聖書神学特殊研究 a	焼山 満里子
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 約聖書、初期キリスト教における神学議論をテキスト、新約聖書、初期教父の著作を通して学ぶ。</p>	
<p><授業の概要> テキストを分担して講読し、そこで行われている議論を批判、検討する。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション及びペイゲルス序論 2. ペイゲルス第一章「神の国は近づいた」 37-63頁 3. ペイゲルス第一章「神の国は近づいた」 64-89頁 4. ペイゲルス第一章において引用された新約聖書箇所を検討 5. ペイゲルス第二章「ローマ体制に逆らうキリスト教徒たち」 91-113頁 6. ペイゲルス第二章「ローマ体制に逆らうキリスト教徒たち」 114-136頁 7. ペイゲルス第二章で引用されていた初期教父の著作検討 8. ペイゲルス第三章「創世記の主題によるグノーシス的解釈の即興変奏曲」 137-152頁 9. ペイゲルス第三章「創世記の主題によるグノーシス的解釈の即興変奏曲」 153-174頁 10. ペイゲルス第三章で引用されていたグノーシス文献の検討 11. ペイゲルス第四章『『独身者の楽園』回復』 175-210頁 12. ペイゲルス第五章「楽園の政治学」 211-244頁 13. ペイゲルス第五章「楽園の政治学」 245-263頁 14. ローマの信徒への手紙におけるアダムの検討 15. ペイゲルス第六章「自然の本性」 265-310頁 	
<p><準備学習等の指示> 各自、テキストを分担し講読を行うので、各回発表担当者は議論の紹介、批判検討を行う。</p>	
<p><テキスト> ペイゲルス『アダムとエバと蛇』ヨルダン社、1993年。各自準備すること。</p>	
<p><参考書>適宜紹介する。</p>	
<p><学生にする評価（方法・基準）> 発表の準備、議論への貢献等による授業参加、期末レポート。</p>	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
新約聖書神学特殊研究 b	焼山 満里子
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 使徒パウロの伝道活動とパウロ教会について理解を深める。</p>	
<p><授業の概要> テキストを講読、批判検討しつつ、パウロの伝道活動とパウロ教会について学び、新約聖書パウロ書簡、初期キリスト教について学ぶ。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. ミークス序論 3. ミークス第一章 「パウロ的キリスト教の都市環境」 33-64頁 4. ミークス第一章 「パウロ的キリスト教の都市環境」 65-112頁 5. ミークス第二章 「パウロ教会の会員達の社会層」 144-168頁 6. ミークス第二章 「パウロ教会の会員達の社会層」 169-190頁 7. ミークス第三章 「教会の形成」 205-246頁 8. ミークス第三章 「教会の形成」 247-280頁 9. ミークスの方法論の検討 10. ミークス第四章 「統治」 301-334頁 11. ミークス第四章 「統治」 335-360頁 12. ミークス第五章 「祭儀」 370-413頁 13. ミークス第六章 「信仰形態と生活形態」 423-450頁 14. ミークス第六章 「信仰形態と生活形態」 451-471頁 15. 総括 	
<p><準備学習等の指示> 各自、テキストを分担し講読を行うので、各回発表担当者は議論の紹介、批判検討を行う。</p>	
<p><テキスト> ウェイン・ミークス『古代都市のキリスト教』加山久夫監訳 ヨルダン社、1989年。古本等の入手を勧める。その他は担当者が準備する。</p>	
<p><参考書> 適宜紹介する。</p>	
<p><学生にする評価（方法・基準）> 発表の準備、議論への貢献等による授業参加、期末レポート。</p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
教義学特殊研究 a	近藤 勝彦
前期・2単位	<登録条件>博士課程に学ぶ者
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>文化生活や人生観の根本にある「時間の理解」をめぐる時間論を思想史的、ならびに教義学的に考察する。日本人の時間観、ギリシャ的時間観、あるいは近代人の時間観に対し、聖書的・神学的な時間観の特質を明らかにする。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>日本人の時間観、ギリシャ的時間観などに次いで、神学上の時間論をアウグスティヌスやバルトの理解などを手がかりにして考察する。</p>	
<p><履修条件></p> <p>学部で組織神学の基本（教義学、倫理学、弁証学）を収めている者</p>	
<p><授業計画></p> <p>第一回： 時間の経験について 第二回： 古代ギリシャの時間理解（パルメニデス、プラトンなど） 第三回： 聖書的時間観の概略（クルマンの説） 第四回： 近代人の時間観（カント、ヘーゲル、ハイデッガー） 第五回： 日本人の時間観（加藤周一の説） 第六回： 日本人の時間観（波多野精一、西田幾多郎） 第七回： 中間の総括 第八回： アウグスティヌスの『告白』11章による「時間の始め」 第九回： カール・バルトのアウグスティヌス批判 第十回： 「時間と永遠」「永遠の今」「超時間」などの問題 第十一回： 「時間の終り」について 第十二回： トマス・トランスの時間論 第十三回： ユルゲン・モルトマンの時間論 第十四回： 時間論におけるキリスト論と救済史 第十五回： 全体の総括</p>	
<p><準備学習等の指示></p> <p>参考文献に実際に触れながら、参加すること</p>	
<p><テキスト></p> <p>アウグスティヌス『告白』、カール・バルト『教会教義学』（「創造論」）、モルトマン『創造における神』</p>	
<p><参考書></p> <p>その他、授業でその都度指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>授業参加の態度と提出レポートの内容を総合して評価する。</p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
教義学特殊研究 b	近藤 勝彦
後期・2単位	<登録条件>学期ごとの履修が可能
<p><授業の到達目標及びテーマ> 「伝道」(Mission) について、その意味、位置、目的などの組織神学的、教義学的な理解を得ること。</p>	
<p><授業の概要> 「伝道」(Mission) についての組織神学的考察を神学史的に扱っていく。それにより従来の神学的欠陥を補充することを試みる。</p>	
<p><履修条件> 学部で神学の基本的学習をした者で、「伝道」(Mission) に関心のある者</p>	
<p><授業計画> 第一回：組織神学・教義学における「伝道」の不在 第二回：「伝道の神学」の嚆矢マルティン・ケーラーの場合 第三回：ケーラーの伝道の神学とその限界 第四回：エルンスト・トレルチの伝道の視点によるドイツ教会批判 第五回：トレルチの「文化論的伝道論」とその限界 第六回：エーミル・ブルナーにおける「神学のもう一つの課題」 第七回：ブルナーにおける「伝道的神学」の提唱と未確立 第八回：カール・バルトにおけるヨーロッパの教会と神学の批判 第九回：バルトにおける伝道理解の和解論的構造とその問題点 第十回：バルト以後をどう構想するか 第十一回：ファン・リューラーとオランダ神学の特徴 第十二回：ファン・リューラーのアポストラートの神学とその問題点 第十三回：1970年代以降における「伝道の神学」の未確立、モルトマンにおける事柄の喪失 第十四回：ヴォルフハルト・パネンベルクのバルト批判とその後の未確立 第十五回：総括・伝道の教義学的考察をめぐって</p>	
<p><準備学習等の指示> テキストを読んで、参加すること</p>	
<p><テキスト> 近藤勝彦『伝道の神学』(教文館、2002年、2007年以降オンデマンド) (学生各自で入手する)</p>	
<p><参考書> 授業でその都度指示する。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 授業参加と提出レポートの内容を総合して評価する。</p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
現代哲学特殊研究 a	神代 真砂実
前期・2単位	<登録条件>現代哲学特殊研究 b との通年の履修（登録が望ましい）
<授業の到達目標及びテーマ> 後期課程レベルの組織神学的思考力の育成	
<授業の概要> カール・バルトの『教会教義学』の演習形式による精読。今年度は創造論。	
<履修条件> (特になし)	
<授業計画> 第1回 オリエンテーション、およびバルトの思想の概要の紹介 第2回 テキスト 3～38 頁：創造者なる神を信じる信仰①限定的・否定的意義 第3回 同 38～73 頁：同②積極的意義 第4回 同 75～109 頁：創造と契約①創造、歴史、創造の歴史(1)創造と歴史 第5回 同 109～137 頁：同①創造、歴史、創造の歴史(2)創造の歴史 第6回 同 137～171 頁：同①創造、歴史、創造の歴史(3)史実性の問題 第7回 同 172～201 頁：同②契約の外的根拠としての創造(1)創世記 1：1～2 の講解 第8回 同 201～214 頁：同②契約の外的根拠としての創造(2)創世記 1：3 の講解 第9回 同 214～244 頁：同②契約の外的根拠としての創造(3)創世記 1：3～5 の講解 第10回 同 244～260 頁：同②契約の外的根拠としての創造(4)創世記 1：6～8 の講解 第11回 同 260～285 頁：同②契約の外的根拠としての創造(5)創世記 1：9～13 の講解 第12回 同 285～306 頁：同②契約の外的根拠としての創造(6)創世記 1：14～19 の講解 第13回 同 306～340 頁：同②契約の外的根拠としての創造(7)創世記 1：14～31 の講解 第14回 同 340～377 頁：同②契約の外的根拠としての創造(8)創世記 1：14～31 の講解 (「神のかたち」の問題) 第15回 同 377～388 頁：同②契約の外的根拠としての創造(9)創世記 1：14～31 の講解 (糧の問題)	
<準備学習等の指示> 必ず事前にテキストを読み、質問やコメントを用意してくること。	
<テキスト> カール・バルト、『教会教義学・創造論 I / 1・創造の業<上>』（吉永正義訳、新教出版社〔オンデマンド〕）。	
<参考書> 授業の中で、必要に応じて紹介する。	
<学生に対する評価（方法・基準）> 三分の二以上の出席を前提とし、発表およびレポート（8,000 字程度）による。レポートの作成にあたっては、担当教員の指導を受けること。	

組織神学専攻・組織神学関係	
現代哲学特殊研究 b	神代 真砂実
後期・2単位	<登録条件>現代哲学特殊研究 a との通年の履修（登録が望ましい）
<授業の到達目標及びテーマ> 後期課程レベルの組織神学的思考力の育成	
<授業の概要> カール・バルトの『教会教義学』の演習形式による精読。今年度は創造論。	
<履修条件> (特になし)	
<授業計画> 第1回 テキスト（上巻）388～416頁：創造と契約②契約の外的根拠としての創造(10)創世記2：1～3の講解 第2回 同 417～437頁：同③創造の内的根拠としての契約(1)創世記2：4～7の講解 第3回 同 437～456頁：同③創造の内的根拠としての契約(2)創世記2：4～7の講解（人間の創造の問題） 第4回 同 456～481頁：同③創造の内的根拠としての契約(3)創世記2：8～17の講解 第5回 同 481～507頁：同③創造の内的根拠としての契約(4)創世記2：8～17の講解（禁止命令の問題） 第6回 同 507～528頁：同③創造の内的根拠としての契約(5)創世記2：8～17の講解（「善悪の知識」の問題） 第7回 同 528～557頁：同③創造の内的根拠としての契約(6)創世記2：18～25の講解 第8回 同 558～586頁：同③創造の内的根拠としての契約(7)創世記2：18～25の講解（「男と女」の問題） 第9回 同 587～607頁：同③創造の内的根拠としての契約(8)創世記2：18～25の講解（新約との関連で） 第10回 テキスト（下巻）3～31頁：創造者なる神の肯定①よき業としての創造 第11回 同 32～72頁：同②実在化としての創造 第12回 同 73～97頁：同③義認としての創造(1)基礎、および確認・凌駕として 第13回 同 97～119頁：同③義認としての創造(2)完全さ・決定性 第14回 同 119～150頁：同③義認としての創造(3)哲学への批判 第15回 同 150～172頁：同③義認としての創造(4)キリスト教信仰と哲学との相違	
<準備学習等の指示> 必ず事前にテキストを読み、質問やコメントを用意してくること。	
<テキスト> カール・バルト、『教会教義学・創造論 I / 1・創造の業<上>』（吉永正義訳、新教出版社〔オンデマンド〕）および『教会教義学・創造論 I / 2・創造の業<下>』（吉永正義訳、新教出版社〔オンデマンド〕）。	
<参考書> 授業の中で、必要に応じて紹介する。	
<学生に対する評価（方法・基準）> 三分の二以上の出席を前提とし、発表およびレポート（8,000字程度）による。レポートの作成にあたっては、担当教員の指導を受けること。	

組織神学専攻・歴史神学関係	
神学史特殊研究 a	棚村 重行
前期・2単位	<登録条件> 組織神学専攻者の履修が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 洗礼、聖餐、教会と職務－中世・宗教改革から現代まで。主題についての現代神学的学びの後、第一次史料を読みながら、各時代の諸教理を検討し、それらの現代的意義を論じる。</p>	
<p><授業の概要> 前期では「洗礼と聖餐」の教理の発展を扱う。先ず WCC の「リマ文書」の洗礼と聖餐の合意を学ぶ。中世・宗教改革時代から近代の諸教派、そして日本基督教団の信仰告白や礼拝式文に表現された教理を検討する。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <p>第 1 回：コースの紹介。履修者との導入討議。 第 2 回：発表（一） 「リマ文書」の「洗礼」について。（学生 2～3 名） 第 3 回：発表（二） 「リマ文書」の「聖餐」について。（学生 2～3 名） 第 4 回：資料研究（一） 中世の洗礼と聖餐論 1（第四ラテラノ公会議、その他公式教令文書） 第 5 回：資料研究（二） 同上 2（枢機卿カジェタン、S. プリエリアス、C. ヘーン） 第 6 回：資料研究（三） 宗教改革の洗礼と聖餐論 1（ルターとルター派の「一致信条書」他） 第 7 回：資料研究（四） 同上 2（ツヴィングリ、布林ガーと「第二スイス信仰告白」） 第 8 回：資料研究（五） 同上 3（カルヴァンとジュネーヴの諸信仰告白、「ハイデルベルク信仰問答」） 第 9 回：資料研究（六） 同上 4（イングランド教会の「三十九箇条」その他） 第 10 回：資料研究（七） 同上 5（再洗礼派および関連諸信仰宣言） 第 11 回：資料研究（八） 同上 6（トレント公会議およびその後近・現代カトリックの諸教令など） 第 12 回：資料研究（九） ピューリタニズムの洗礼と聖餐論（「ウェストミンスター信仰告白」、「サボイ宣言」、「ロンドン宣言」） 第 13 回：資料研究（十） メソディズムの洗礼と聖餐論（J. ウェスレーと「宗教箇条」） 第 14 回：資料研究（十一） 日本の諸教派の洗礼と聖餐論 1（改革－長老派系、会衆派系、メソヂスト系、バプテスト系、その他） 第 15 回：資料研究（十二） 同上 2 日本基督教団の「口語式文」における洗礼と聖餐理解、まとめ</p>	
<p><準備学習等の指示> 講義形式で第一次資料を読むので、予習よりも復習を重視すること。</p>	
<p><テキスト> 『洗礼・聖餐・職務－教会の見える一致をめざして』（教団出版局）。A.E. マググラス『宗教改革の思想』（教文館）。</p>	
<p><参考書> 授業中に指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 1. 平生は資料研究中心なので、質疑応答に参加すること。2. 期末には、各自洗礼と聖餐のテーマについて、二つの異なる人物、運動の教理を取り上げ、第一次史料を分析し比較・検討せよ。そして現代神学と実践の立場から、それらの教理の意義をレポートで論ぜよ。（分量は 400 字詰め 35 枚以内）。</p>	

組織神学専攻・歴史神学関係	
神学史特殊研究 b	棚村 重行
後期・2単位	<登録条件>組織神学専攻者の履修が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 洗礼、聖餐、教会と職務―中世・宗教改革から現代まで。主題についての現代神学的学びの後、第一次史料を読みながら、各時代の諸教理を検討し、それらの現代的意義を論じる。</p>	
<p><授業の概要> 後期では「教会と職務」の教理の発展を扱う。先ずWCCの「リマ文書」等の教会と職務の合意を学ぶ。中世・宗教改革時代から近代の諸教派、そして日本基督教団の信仰告白や礼拝式文に表現された教理を検討する。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：コース紹介。履中者との導入討議。 第2回：発表（一） 「教会」についての現代の教理論文を読む。（学生2～3名） 第3回：発表（二） 「リマ文書」の「職務」について。（学生3～4名） 第4回：資料研究（一） 中世の教会と職務論1（中世の教会と職務への公式教令文書） 第5回：資料研究（二） 同上 2（トマス・アクイナス、ヤン・フス、教皇ピウス二世等） 第6回：資料研究（三） 宗教改革の教会と職務論1（ルターとルター派の「一致信条書」他） 第7回：資料研究（四） 同上 2（ツヴィングリ、布林ガーと「第二スイス信仰告白」） 第8回：資料研究（五） 同上 3（カルヴァンとジュネーヴの諸信仰告白、「ハイデルベルク信仰問答」） 第9回：資料研究（六） 同上 4（イングランド教会の「三十九箇条」その他） 第10回：資料研究（七） 同上 5（再洗礼派および関連諸信仰宣言） 第11回：資料研究（八） 同上 6（トレント公会議およびその後の近・現代カトリックの諸教令など） 第12回：資料研究（九） ピューリタニズムの教会と職務論（「ウェストミンスター信仰告白」、「サボイ宣言」、「ロンドン宣言」） 第13回：資料研究（十） メソディズムの教会と職務論（J.ウェスレーと「宗教箇条」） 第14回：資料研究（十一） 日本の諸教派の教会と職務論1（改革―長老派系、会衆派系、メソヂスト系、バプテスト系、その他） 第15回：資料研究（十二） 同上 2 日本基督教団の「口語式文」における教会と職務理解、まとめ</p>	
<p><準備学習等の指示> 講義形式で第一次資料を読むので、予習よりも復習を重視すること。</p>	
<p><テキスト> 『洗礼・聖餐・職務―教会の見える一致をめざして』（教団出版局）。A.E.マッグラース『宗教改革の思想』（教文館）。</p>	
<p><参考書> 授業中に指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 1. 平生は資料研究中心なので、質疑応答に参加すること。2. 期末には、各自洗礼と聖餐のテーマについて、二つの異なる人物、運動の教理を取り上げ、第一次史料を分析し比較・検討せよ。そして現代神学と実践の立場から、それらの教理の意義をレポートで論ぜよ。（分量は400字詰め35枚以内）。</p>	

組織神学専攻・歴史神学関係	
教父学特殊研究 a	関川 泰寛
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> キリスト教教理史の主題を定めて、一次史料に基づいて講義する。一次史料の読解の能力を高める</p>	
<p><授業の概要> テキストに沿って、古代教会の三位一論、キリスト論、救済論、聖書論、教会論などを学ぶ。前期には、使徒教父からニカイア会議までを扱う。必要に応じて、一次史料を読んで、発表してもらう。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：教父時代の背景、 第2回：伝統と書物 第4回：エイレナイオスを読む 第5回：使徒教父と弁証家の三一論 第6回：ユスティノスを読む 第7回：三世紀の三一論の展開 第8回：テルトゥリアヌスを読む 第9回：アレキサンドリア学派の神学の特色 第10回：オリゲネス『諸原理について』のキリスト論と三位一体論 第11回：人間と贖罪 第12回：古代教会における教会論と職制 第13回： sacrament理解と洗礼、聖餐の教理の展開 第14回：ニカイア神学とアレイオスの教説 第15回：全体に関わる質疑応答とディスカッション。</p>	
<p><準備学習等の指示> 古代教会史の知識を整理しておくこと。</p>	
<p><テキスト> J.N.D.ケリー『初期キリスト教教理史(上)』（一麦出版社、2500円）、各自用意すること。</p>	
<p><参考書> ペリカン『キリスト教の伝統』1巻（教文館）、その他は、都度指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> クラスでの貢献と小論文</p>	

組織神学専攻・歴史神学関係	
教父学特殊研究 b	関川 泰寛
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> キリスト教教理史の主題を定めて、一次史料に基づいて講義する。一次史料の読解の能力を高める</p>	
<p><授業の概要> テキストに沿って、古代教会の三位一論、キリスト論、救済論、聖書論、教会論などを学ぶ。後期には、ニカイア会議以降の時代の教理を扱う。必要に応じて、一次史料を読んで、発表してもらう。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画> 第1回：アタナシオス神学 第2回：4世紀の三一論 第3回：カッパドキア教父の神学 第4回：ナジアンゾスのグレゴリオスを読む 第5回：ヒラリウス『三位一体論』と西方における三位一体論 第6回：4世紀のキリスト論 第7回：キリスト論論争とその決着 第8回：聖霊論の展開 第9回：バシレイオスを読む 第10回：アウグスティヌス『三位一体論』を読む。 第11回：人間の墮落と神の恩寵 第12回：救済論の展開 第13回：教会論 第14回：終末論 第15回：全体のまとめと質疑。</p>	
<p><準備学習等の指示> 古代教会史の知識を整理しておくこと。</p>	
<p><テキスト> J.N.D.ケリー『初期キリスト教教理史（下）』（一麦出版社、2500円）、各自用意すること。</p>	
<p><参考書> ペリカン『キリスト教の伝統』1巻（教文館）、その他は、都度指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> クラスでの貢献と小論文</p>	